

制度	事業年度	No.	団体情報					事業情報				
			団体名	代表者名	(代表者略歴)	設立年月日	Link	事業名	目的	目標	事業内容	
アドバンスド	2021	1	一般社団法人 SNOW BANK	荒井 善正	2004年 プロスノーボーダーとして活動を開始 2006年 自宅で気を失い原因不明のまま闘病生活開始 2007年 「慢性活動性EBウイルス感染症」の診断 2008年 骨髄移植を受ける 2009年 骨髄バンクドナー登録説明員資格取得 2010年 認定NPO法人全国骨髄バンク推進連絡協議会理事就任 2015年 一般社団法人SNOWBANK設立	2015年6月3日	https://sbpif.net/	若者による献血・骨髄バンクドナー登録普及啓発促進プロジェクト	輸血や骨髄移植を必要とする患者さんが必要な時に必要な治療が受けられる環境を作り、全ての患者さんが治療のスタートラインに立てる社会を創ること。	骨髄バンクドナー登録の推進を進めやすいアイデアやプラットフォームを提供する事で献血・骨髄バンクドナー登録数等を飛躍的に拡大すること。	これまで実施してきた若者による献血・骨髄バンクドナー登録を飛躍的に拡大させることを目指すものである。全国の大学に存在する献血サークルを対象に大学対抗「献血インカレ全国大会」の開催や献血オンラインライブなど、これまではなかった視点から新しい取り組みに挑戦し、若者が関心を持つきっかけの場を拡大していくプロジェクトを実施する。	
		2	一般社団法人 日本スポーツマンシップ協会	中村 聡宏	1996年祥文社印刷株式会社入社 2000年株式会社松栄堂入社 2002年独立行政法人経済産業研究所アシスタントリサーチャー就任 2004年スポーツ総合研究所株式会社取締役就任 2012年特定非営利活動法人スポーツマンシップ指導者育成会設立副理事就任。 2014年千葉商科大学サービス創造学部特命講師就任。 2015年千葉商科大学サービス創造学部専任講師就任（現職） 2018年一般社団法人日本スポーツマンシップ協会設立 代表理事・会長就任	2018年6月26日	https://sportsmanship.jp.com/	スポーツからの学びを日常生活に繋げる、保護者向けスポーツマンシップ教育プログラム	スポーツマンシップに対する保護者の認識や理解、日常生活における支援行動が促進されることで、スポーツ指導の中で子供が学ぶスポーツマンシップを、保護者が日常生活の場面や状況の中で引き出して活かせるようになり、子供が主体的にスポーツマンシップを体現できるようになる。	本年度の取り組みを通じて本モデルの効果を実証すること、全国にある他のスポーツクラブや競技団体、自治体などに展開するといった波及効果を期待する	スポーツ指導者と保護者のスポーツマンシップに対する認識にギャップがあり、スポーツを通じた子どもの気づきや学びが活用されていないという課題に着目し、スポーツマンシップに対する保護者の認識や理解をセミナーを通じて促進する	
		3	一般社団法人 渋谷未来デザイン	小泉 秀樹	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了後、1997年から東京大学大学院講師（都市工学）、2000年助教授を経て、2013年より同教授。2018年より同職に就任。著書に「コミュニティ・デザイン学」（編著、東京大学出版会）、「コミュニティ事典」（編著、春風社、近刊）「スマート・グロース」（編著、学芸出版社）ほか	2018年4月2日	https://fds.or.jp/	小中学生を対象としたストリートスポーツ振興、マナー啓蒙プロジェクト、Next Generations	ストリートスポーツができる場所を増やすために、マナー啓蒙し、街中でストリートスポーツを広く受け入れられるようにすること。子どもたちが新しいスポーツに出会うきっかけと、様々なスポーツに親しむ機会を提供すること。	ストリートスポーツの選手になる、それに関わる仕事をするなど、渋谷の発信力を生かして、ストリートスポーツに関わる仕事を未来の夢として子どもたちが語れるような文化の醸成を目指す。また渋谷を再び日本のストリートスポーツのメッカにし、このプロジェクトあるいは渋谷からオリンピックや世界的アスリートが誕生させることを目指す。	スケートボードがオリンピック競技に選ばれるなど、注目を集めているストリートスポーツの若年層の積極的な参加を促し、ストリートスポーツの振興、マナー啓蒙を目的としている。また、中高生向けにスポーツイベントをつくる体験スクールを開催し、スポーツを支える仕事の魅力を伝えるとともに、企画実行力、チャレンジ精神を養う場を提供	
		4	公益社団法人 日本プロスキー教師協会	中島 英臣	・1999～2001 理事 総務部 ・2002～2007 理事（技術開発部長） ・2008～2011理事（教育部長） ・2012～2015 理事（総務部長） ・2016～ 会長	1968年11月30日	https://www.sia-japan.or.jp/	障害者スキー受入れの体制構築	障がい者の雪上体験が容易にできる体制を構築し、障がい者が全国のスキー場に気軽にアクセスできる環境を実現すること。最終的には障がい者の方々が当たり前のように健常者の方々とスノースポーツを楽しむ“普通の”風景を実現すること。	本事業の取り組みによって年度内に全国に展開している公認校（132校）に最低1名の障がい者対応ができる有資格者を配備できるようにしたい。	障害者が健常者と同じようにスノースポーツを楽しむことができるように、専門知識と技術を持った「障害者認定教師」を全国に132校ある公認スキー学校で最低1名ずつ配備するための教師育成や、障がい者対応のテキスト・動画作成、チェアスキーの配備等を行うもの	
		5	一般社団法人 センターポール	田中 時宗	2018年 就労継続支援B型事業所 一般社団法人アイビー設立 2015年 一般社団法人センターポール設立	2015年12月21日	https://www.centerpole.work/	スポーツを活用した障がい者社会進出および、サポーター普及プログラム	障害を持つ子供たちが、定期的に指導者から運動機会やスポーツを通じての社会学習を行う事で、参加者がスポーツを通じて成長と自立できる環境を提供すること。	障害を持つ方にとって、本プログラムのスポーツをきっかけに、将来は自分らしく過ごし、経済的にも自立した生活を行うことが出来るようになることが目標	本事業は、障がいのある子どもたちが定期的に健常者と一緒にバラスポーツを体験しながら、仲間を作り、障害への理解を深めるスポーツ教室を継続的に実施するもの。来年度は、活動拠点を置く東京以外の地方でもバラスポーツ定期運動プログラムを確立させることを目的に、所属するバラスポーツを派遣し、本プログラムの全国展開を図っていく予定である。	